

産業廃棄物処理計画書

令和5年6月9日

埼玉県知事
大野 元裕 殿



提出者
住 所 埼玉県比企郡吉見町大字下細谷943-1
氏 名 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
埼玉工場 工場長 大島 博行
電話番号 0493-54-2020

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

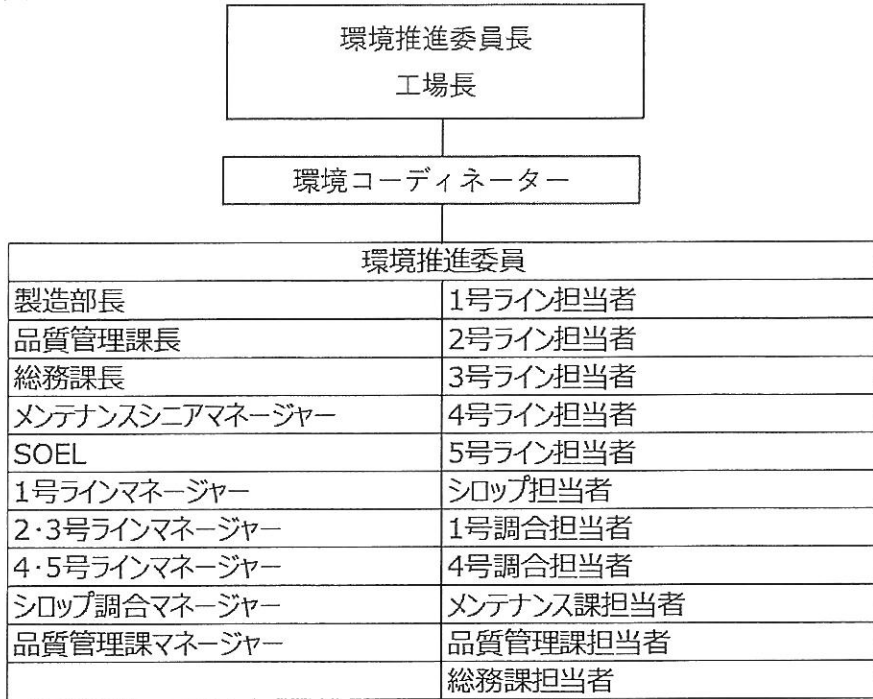
事業場の名称	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 埼玉工場
事業場の所在地	埼玉県比企郡吉見町大字下細谷943-1
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日迄

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	飲料製造業
② 事業の規模	令和4年生産量 31,224千CS
③ 従業員数	170(令和5年4月1日現在) ※嘱託社員、長期契約社員を含む
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>コーヒーライン生産工程</p> <p>① 【コーヒー豆粕・茶粕排出イメージ】</p> <p>② 【運搬・処分イメージ】 CCBJI埼玉工場 ⇒ 中間処分業者(最終処分業者)にて堆肥製造 ⇒ 中間処分業者にて、カーボンを含む廃棄物として、 金属を含む廃棄物を燃焼・還元、製鉄原料を作る。</p>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



環境推進委員会

1) 環境推進委員会・・・工場における環境マネジメントシステムの実施、維持の推進組織

2) 目的・役割

- ・環境推進委員会は原則として、3ヶ月に1回開催する。その他必要に応じて、環境推進委員長又は、環境コーディネーターが開催する。
- ・環境推進委員長不在時は、環境コーディネーターが代行する。
- ・活動の中核は、埼玉工場環境コーディネーター及び各部署からの選出メンバーとする。
- ・各課長、マネージャーは常任とする。
- ・環境推進委員は、担当部門における環境マネジメントシステム活動に関する推進役を担う。
- ・環境監査のフォローアップ改善
- ・環境巡視による環境側面チェック
- ・順守評価の進捗確認
- ・教育計画の推進

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	排出量	t	t

	(今後実施する予定の取組)
産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) ・再生利用に関する情報収集を行う		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	- t

	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) ・ 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する情報収集を行う		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 埋立処分に関する情報収集を行う。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t

	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ（ｺｰﾋｰ粕、茶粕）	廃ﾌﾟﾗｽチック類
	排出量	1,844 t	59 t
	（これまでに実施した取組） ◎ 3R(ﾘﾌﾞﾙｰｽ、ﾘｳｰｽ、ﾘｻｲｸﾙ)への取組を強化し、ﾘｻｲｸﾙの促進に努めています。 ①堆肥化への推進等 ◎有価物化比率の拡大 ・一段階有効活用：養豚業者豚舎への床敷への活用 ⇒発酵⇒堆肥化⇒近郷農家&商品化 ②化石燃料の使用量削減及び二酸化炭素放出量削減の観点から、植物性残渣をバイオマス発電に使用している業者との提携の強化 ◎ 梱包材や、包装資材を過剰にせず、必要最小限としている。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ（ｺｰﾋｰ粕、茶粕）	廃ﾌﾟﾗｽチック類
	排出量	1,800 t	53 t
	（今後実施する予定の取組） ◎ 3R(ﾘﾌﾞﾙｰｽ、ﾘｳｰｽ、ﾘｻｲｸﾙ)への取組を、引続き資源を有効活用取組として推進して行きます。 ①バイオマス燃料として提供への取組 ②他工場で採用している、ﾌﾞｲｵ発酵処理システムへの取組検討 ③堆肥化への推進 ④有価物比率の拡大 ・残さ物の副資材化⇒堆肥化への促進強化 ・容器栽培に用いる植物栽培用土として活用。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）	
	動植物性残さ（ｺｰﾋｰ粕、茶粕）は、全産業廃棄物中99%を占めている。 当工場から委託処理される産業廃棄物は、発酵処理が1442 t/年となっており、概ね発酵処理となっている。有価 10,251t(バイオマス 1,202t含) ◎ 廃棄物分別エリアを設け、有価物への奨励を薦め、ﾌｪｯｸ体制を強化工場内のﾘｻｲｸﾙセンターで分別を強化している。	
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ◎ 定められた場所に、定められた物を保管する事を徹底する。	

- ・産業廃棄物の有価物化の維持と推進
- ・廃棄物処理委託会社及び収集運搬会社の現地視察による、業務管理の強化を図る。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	汚泥
	排出量	2,274 t	0 t
	<p>（これまでに実施した取組）</p> <p>賞味期限の切れたアルコール製品の廃棄を実施。今後賞味期限切れ発生を最小化するため関係部署とコミュニケーションを密にしていく。また新製品初回生産時にトラブルが有り55t廃棄、CCJCと協同で新製品トラブルの発生を防止する。その他テスト生産時の廃液が発生するが必要最小限のテストに留める。</p> <p>汚泥については、食堂のグリストラップ清掃で極力排水量を少なくする活動を実施しているため発生無し。</p>		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	汚泥
	排出量	200 t	0.8 t
	<p>（今後実施する予定の取組）</p> <p>引き続き必要最小限のテストを実施。 水使用量の削減を進め食堂の排水量を少なくしていく。</p>		

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	金属クズ
	排出量	0.1 t	207 t
	<p>（これまでに実施した取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り分別を実施し、廃棄物量の削減を実施 ・賞味期限の切れたアルコール製品を廃棄したため金属クズが多くなったもの。 		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	金属クズ
	排出量	0.1 t	100 t
	<p>（今後実施する予定の取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生する廃棄物の分別による、廃棄物量削減の継続 		

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃インク	木くず
	排出量	0.1 t	2 t
	（これまでに実施した取組）		

	<ul style="list-style-type: none"> ・廃インク 他廃液の混入を防止し,発生量を最少化 ・木くず 各種物品の入荷に伴う木製梱包の取りやめにより、発生量を最少化 		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃インク	木くず
	排出量	0.1 t	1.8 t
	(今後実施する予定の取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物発生量の最少化の継続 			

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラス	廃乾電池
	排出量	0.3 t	0.1 t
	(これまでに実施した取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス ・廃乾電池 電池寿命の長い乾電池に切り替え、発生量を最少化 			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラス	廃乾電池
	排出量	0.3 t	0.1 t
	(今後実施する予定の取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物発生量の最少化の継続 			

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	
	排出量	0 t	
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	
	排出量	0 t	
	(今後実施する予定の取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物発生量の最少化の継続 			

【別紙】

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ (ｺｰﾋｰ粕、茶粕)	廃プラスチック類	
	全処理委託量	1,844 t	59 t	
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	59 t	
	再生利用業者への 処理委託量	1,844 t	0 t	
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	
	(これまでに実施した取組) ・発生量の最少化			
	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	動植物性残さ (ｺｰﾋｰ粕、茶粕)	廃プラスチック類
全処理委託量		1,800 t	53 t	
優良認定処理業者への 処理委託量		t	53 t	
再生利用業者への 処理委託量		1,800 t	0 t	
認定熱回収業者への 処理委託量		0 t	0 t	
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		0 t	0 t	
(今後実施する予定の取組) ・委託した処分場、収集運搬会社等の現地視察を定期的実施する。 ・可能な限り、優良認定業者から選定する。 ・地球環境に寄り添う気持ちを大切にし、環境に配慮した業務プロセス実現に努め、 有価物比率の向上、廃棄物の削減に努める。				

※事務処理欄

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	汚泥
	全処理委託量	2,274 t	0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	2,274 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
（これまでに実施した取組） ・発生量の最少化 ・アルコール廃棄量を最小化するようコミュニケーションを関係部署と コミュニケーションを密にする			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	汚泥
	全処理委託量	200 t	0.8 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	200 t	0.8 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
（今後実施する予定の取組） ・委託した処分場、収集運搬会社等の現地視察を定期的実施する。 ・可能な限り、優良認定業者から選定する。 ・地球環境に寄り添う気持ちを大切に、環境に配慮した業務プロセス実現に努め、 有価物比率の向上、廃棄物の削減に努める。			
※事務処理欄			

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	金属クズ
	全処理委託量	0.1 t	207 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.1 t	207 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) ・発生量の最少化			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	金属クズ
	全処理委託量	0.1 t	100 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.1 t	100 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) ・委託した処分場、収集運搬会社等の現地視察を定期的実施する。 ・可能な限り、優良認定業者から選定する。 ・地球環境に寄り添う気持ちを大切にし、環境に配慮した業務プロセス実現に努め、 有価物比率の向上、廃棄物の削減に努める。			
※事務処理欄			

①現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃インク	木くず
	全処理委託量	0.1 t	2 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.1 t	2 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・発生量の最少化		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃インク	木くず
	全処理委託量	0.1 t	1.8 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.1 t	1.8 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・委託した処分場、収集運搬会社等の現地視察を定期的実施する。 ・可能な限り、優良認定業者から選定する。 ・地球環境に寄り添う気持ちを大切に、環境に配慮した業務プロセス実現に努め、 有価物比率の向上、廃棄物の削減に努める。		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 4年度）実績】
-----	-----------------

産業廃棄物の種類	ガラス	廃乾電池
全処理委託量	0.3t	0.1t
優良認定処理業者への 処理委託量	0.3 t	0.1t
再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) ・発生量の最少化		
②計画		
【目標】		
産業廃棄物の種類	ガラス	廃乾電池
全処理委託量	0.3t	0.1t
優良認定処理業者への 処理委託量	0.3 t	0.1t
再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) ・委託した処分場、収集運搬会社等の現地視察を定期的実施する。 ・可能な限り、優良認定業者から選定する。 ・地球環境に寄り添う気持ちを大切に、環境に配慮した業務プロセス実現に努め、 有価物比率の向上、廃棄物の削減に努める。		
※事務処理欄		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
①現状	【前年度（令和 4年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ

②計画	全処理委託量		0t	
	優良認定処理業者への 処理委託量		0t	
	再生利用業者への 処理委託量		0t	
	認定熱回収業者への 処理委託量		0t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		0t	
	(これまでに実施した取組) ・発生量の最少化			
	【目標】			
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ		
	全処理委託量		0t	
	優良認定処理業者への 処理委託量		0t	
再生利用業者への 処理委託量		0t		
認定熱回収業者への 処理委託量		0t		
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		0t		
(今後実施する予定の取組) ・委託した処分場、収集運搬会社等の現地視察を定期的を実施する。 ・可能な限り、優良認定業者から選定する。 ・地球環境に寄り添う気持ちを大切にし、環境に配慮した業務プロセス実現に努め、 有価物比率の向上、廃棄物の削減に努める。				
※事務処理欄				